

いろいろな磁化測定

7月から8月にかけて最近できた緑色の結晶(右)の磁化測定を集中的に行いました。

物性研では非破壊型/破壊型パルス磁場中だけでなく、定常磁場中でSQUID磁束計やファラデー法を用いた測定も可能で、それぞれ得意な温度と磁場が異なるため、うまく使うといいデータが取れます。

溶液中で作るのに潮解性があるという厄介な試料でしたが、石井助教(松田研)の協力のもと120テスラまで測定し、無事に磁化飽和を見ることができました。

